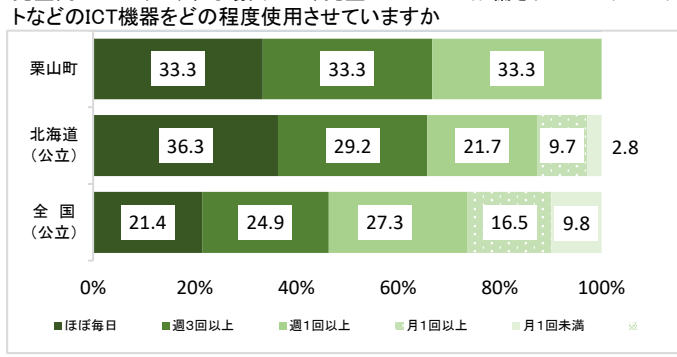
○ 質問調査の状況

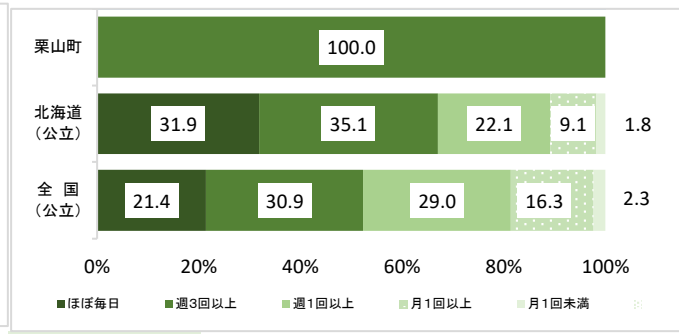
小学校
＜学校質問＞

児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



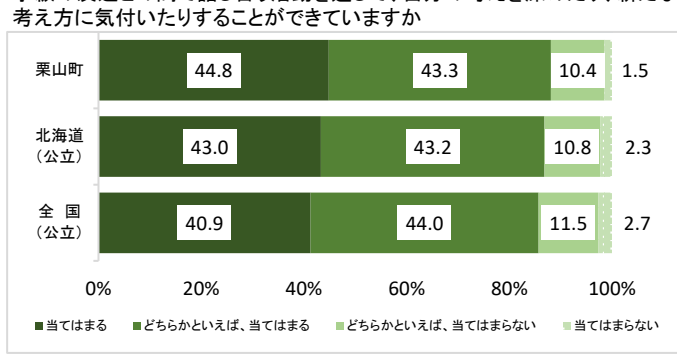
中学校
＜学校質問＞

生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



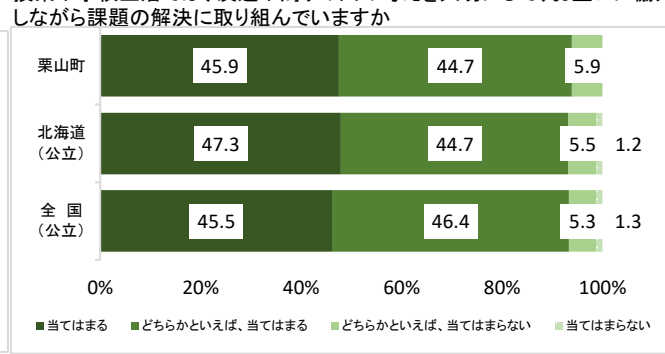
小学校
＜児童質問＞

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



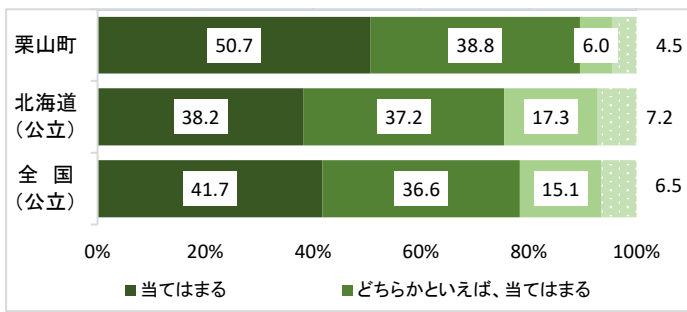
中学校
＜生徒質問＞

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

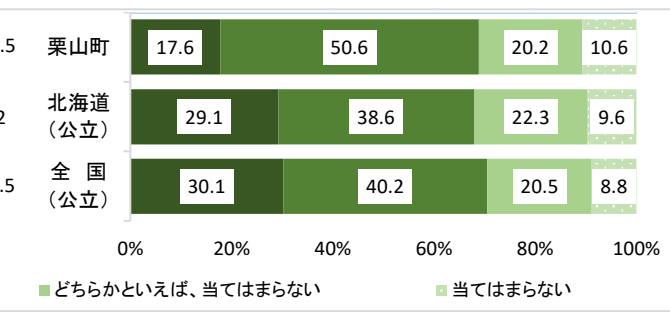


小学校
＜児童生徒質問＞

算数[数学]の授業の内容はよく分かりますか



中学校



○ 調査結果の分析

- 小学校において、児童同士がやりとりする場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていると回答した児童の割合が全国及び全道と同様の結果になったと考えられる。

- 中学校において、生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週３日以上活用したことにより、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した生徒が、全国及び全道と同様の結果になったと考えられる。

- 算数[数学]の「授業の内容はよくわかる」「どちらかといえばよくわかる」という肯定的回答は小学校では全国及び全道を上回り、中学校では全国及び全道と同様の結果になっている。平均正答率は全国及び全道を下回っているが、ICT機器の活用や協働的な学びの取組が良い影響となっていると考えられる。

○ 今後の改善方策

- 児童生徒の授業の理解度等に応じた指導方法の工夫改善を図ることによる児童生徒一人一人の資質・能力を確実に育成する取組の推進
- ICT端末を活用した学習支援ソフトによる家庭学習の習慣化を図る取組の推進

- 小学校及び中学校における確かな学力の向上に向けた学習サポート教員や専門スタッフの配置促進